

## 昭和60年度日本気象学会奨励金受領者選定理由書

**奨励金受領者** 中田隆一（神戸海洋気象台）

**研究題目** 瀬戸内海における海陸風，主として収束雲の研究

### 選定理由

中田会員は奈良県立五条高校を卒業し，昭和38年に大阪管区気象台に就職した。以来主として瀬戸内沿岸の気象官署で業務に従事するかたわら局地気象の解明にとり組み，多くの調査研究を行ってきた。

昭和56年には広島湾周辺に発生する蒸気霧の調査のため，海水温や湾に流入する川の水温の自主観測を行い，潮汐に伴って接近する高温な海水の存在が霧の発生に大きく寄与していることを明らかにした。昭和57年には愛媛県長浜町肱川河口で発生する強風，“肱川あらし”について小型航空機のデータも利用して解析した。その結果，このあらしの発生が海水温と大州盆地の最低気温との差に大きく依存することや，これらに伴う霧の発生と移動，消滅の空間分布を明らかにした。

同会員はまた瀬戸内海西部沖合に発生する雲列“陸風収束雲”の解析を行い，小型航空機のデータを利用して収束雲の地域分布の全体像を明らかにすると共に，陸風循環の立体構造についても考察を加えた。以来同会員は，海陸風循環の境界の解明，大気汚染物質の拡散，海霧の発生との関連等，一貫して陸風収束雲の調査を行っている。

上記及び関連の研究は研究時報，海と空，天気等に発表されている。同会員の研究は極めて実証的で，小型機に依頼した航空機観測，小型船を利用した水温の自主観測，民間会社の風資料の利用等，データ収集に多大の努力を払っていることに大きな特色がある。

同会員は現在神戸海洋気象台で春風丸の観測をも利用して瀬戸内海東部海域の陸風収束雲の調査を進めている。これら一連の研究を更に発展させることは局地気象の解明に大きく寄与するものと考え，本学会はここに奨励金を贈るものである。

**奨励金受領者** 水野 量（仙台管区気象台）

**研究題目** 地域気象の解析

### 選定理由

水野 量会員は，昭和55年3月気象大学卒業後，青森地方気象台に配属され，現業勤務にたずさわりが

ら，地域に密着した気象の調査研究に熱心にとり組んだ。

まず，青森県の気象に関して，地域気象観測システム（AMe DAS）のデータを客観解析すべくマイクロコンピュータを使用して「アメダスの客観解析とその利用例」を管区研究会で発表し，研究時報に掲載した（1982）。

そしてその解析法は波長 100 km 以上の気象じょう乱を検出できることや，前線解析や海陸風の解析にも有力であることを示した。

また，この研究も含めた「青森県のアメダスデータを用いた客観解析プログラム」（1983：東北技術だより）は他県にも応用できるものとして高く評価された。

同会員は昭和58年4月に青森から仙台管区気象台に転動したが，そこで市川政治会員（現気研）と共同して，ステップワイズ回帰分析法を改良して，気温分布などのよりよいメッシュ気候図作成の研究を行い，その成果は研究時報（1984）に発表し，この分野の研究に寄与した。

また，アメダスデータによる東北地方全体についての日最大，1時間最大および一雨最大降水量の地域分布を綿密に解析し，その緯度，経度分布，山岳の影響による分布及び海岸からの距離の関数としての分布などについて重要な成果を発表した。

同会員は，上記研究の方法と成果を基礎にして，今後は気象じょう乱とその降水に関する地域特有の反応，災害との関連を調査研究すべく計画を練り，すでに意欲的に実行に入っている。

水野会員のこれまでの研究は地域気象に密接しており，その成果は地域気象の解明に多くの貢献をしている。また，その手法は仙台管内でも広く活用され，更に後進の研究活動に励みを与えているときく。

本学会は同会員の研究が今後一層発展し，それが気象学の発展に寄与するものと考え，ここに奨励金を贈るものである。

**奨励金受領者** 名越利幸（東京都八王子市立第一中学校）

**研究題目** 八王子の局地気象

### 選定理由

名越会員は昭和56年東京学芸大学修士課程を終了後，

八王子市立第一中学校に理科担当教諭として勤務し、気象教材を生徒にとって身近なものにするにはいかにかすべきかをたえず心がけ、研究および教育実践を行ってきた。

イソプレット図や気象衛星の雲画像の効果的な教育利用法の開発などもその一環として行ってきたが、さらに八王子の局地気象を生徒とともに観測して、身近な気象に生徒の関心を向けさせることに努力し、成果をあげてきた。

約30名の生徒とともに、八王子の各地において気温と風の同時観測を行い、局地気象の研究を行った。観測が単なる学習の域に止まらず、結果が学術研究の上からも価値の高いものになることは、学術の発展のためのみならず生徒に与える影響からも望まれる。そのため、生徒に測定の指導を十分に行い、必要な精度の結果を得ることを目指して観測に当たった。生徒の自宅における測定だけでは量的に不十分なので、名越会員自身、自動車による移動観測を行いデータの完全を期した。

観測の結果、八王子には、盆地の冷氣湖と市街地のヒート・アイランドが同時に存在することが解明された。

本研究は、八王子における盆地のヒート・アイランド現象の解明のほかに、観測やデータの検討に中学生を参加させる手段について工夫を行い、生徒の気象への関心を高めるための教育方法の開発に成功したことの意義が大きい。

名越会員は、この研究を深めるための基礎データが得られるように、気温の高度分布も含むさらに充実した観測を、中学の教育の一環として、本年12月に行う計画をもって、本研究に精力的に取り組んでいる。

生徒と共に研究活動を行うことにより、生徒の気象に関する興味関心を高める指導をされた同会員の教育・研究に対する姿勢は、気象教育が今後目指すべき一つの方向を示している。同会員には、今後も学校気象教育において多大の貢献が期待されるので、本学会はここに奨励金を贈るものである。

## 昭和61年度日本気象学会春季大会の告示

1. 期 日 5月21日(水)～23日(金)

(岩崎俊樹)

2. 会 場 気象庁

(東京都千代田区大手町 1-3-4)

TEL. 03-212-8341 内線 283

3. 研究発表

1) 講演申込・予稿原稿の締切: 3月18日(火) 必着  
期限厳守のこと

2) 申込先: 東京都千代田区大手町 1-3-4 気象庁  
数値予報課内 講演企画委員会

3) 様式: 本号挿入の申込用紙に記入, 予稿原稿を添えて申し込むこと。原稿用紙は本誌挿入のものを使用すること。詳細は次頁の講演予稿集原稿の書き方をご覧ください。

4) 講演時間: 討論を含め12分程度

講演時間は事情により短縮されることがあります。

シンポジウム

テーマは未定

## 講演企画委員会からのお知らせ

1. 講演数に関する制限の廃止について

昭和60年の春季及び秋季の気象学会において、同一発表者の同一中項目における申込み件数を1件にしました。この試行の結果では、必ずしも申込み件数は減少しませんでした。また、無理に異なる項目に振り分けた申込みがある等、プログラム編集に支障を来たす例も見られました。このため、昭和61年の春季大会からはこの制限を廃止します。「同一発表者による申込み件数は2件以内」という制限は従来

通りです。)ただし、講演数が多く講演時間が十分とれない状況は変わっておりません。同一内容の講演はできるだけ一つの講演にまとめて下さるよう今後とも御協力お願い致します。

2. 希望部門の分類の変更

積雲対流(廃止)

大規模現象(廃止)

熱帯気象→熱帯気象・台風

雲物理→雲物理・積雲対流